
願いを

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
願いを

【Nコード】
N8358F

【作者名】
柊鏡

【あらすじ】
栄子は悪魔に出会った。悪魔は優しい声音で彼女に言った。「君の願いを何でも成就させてあげよう」

願い

栄子は悪魔に出会った。

悪魔は優しい声音で彼女に言った。「君の願いを何でも成就させてあげよう」

「何でも？」と訊き返すと、悪魔は鷹揚に頷いた。「何回だって叶えて上げよう」

試しに栄子は願ってみた。「A組の直子を殺して」

「承知」

翌日、直子は交通事故で死んだ。

証拠は何もなく、事故以外の何様でもなかった。

悪魔の言った事は本当だったのだ。栄子は小躍りして、又願った。「幼馴染の明を殺して」

「承知」

翌日、明も居なくなつた。

栄子は再び喜んだ。

まるで万能を力を手に入れた気分だった。

悪魔に対し、次々に願った。あいつを殺せ、あいつを殺せ。

富が欲しいとか、名誉が欲しいとか、美人になりたい等と彼女は一切願わなかった。ひたすらに、殺せ、殺せと願った。

気に食わない連中を地球上から消す事が第一だった。

殺すように願っても願っても、次から次へと気に食わない連中は頭の中に浮かんだ。

段々まどろっこしくなつて来た。

一々、個人を名指ししては切りがない。

もっと手早くやる方法はないものか。
閃いた。

栄子は悪魔に言った。「人間を滅ぼせ！」

「いいのかい？」

悪魔は目を眇めて栄子を見ている。

栄子は首肯した。

「本当に？」

悪魔は念を押す。

栄子はムキになって、言った。「人類を滅ぼせって言ってるじゃんかつ！」

「承知」

悪魔が快諾した途端、栄子は血反吐を吐いて倒れた。そして、動かなくなった。死んでしまった。

こうして、人類は滅んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8358f/>

願いを

2010年10月16日14時04分発行